

「けやき俳句の会」会報(第百八十八回)

平成三十一年三月

第百八十八回句会記録

★日時 三月六日

★場所 けやき学習室

(参加者二十一名)

★真樹先生投句

- ② 白梅の香や沈黙という真理
- ② 霞立つ白樺若き日の写真

迫真の演技木五倍子は満開に

★真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎④ 大粒の汽水育ちの蜆汁
- ◎③ 春銀河いよよ急坂米寿まで
- ◎③ 真つ直ぐに暮らせと言伝て鳥帰る
- ◎⑤ 枝垂梅一山に咲き人の山
- ◎⑤ 老い猿の真顔春愁に似たるかな
- ◎② 通夜帰り凍てつく道を照らす月
- ◎② 山腹の割れ流れこむ雪解水
- ◎② 春を呼ぶ真行草の書道展
- ◎② 重機音止みし更地や地虫出づ
- ◎② 古写真抽斗の底長閑さも
- ◎① 藻草生ふ生き生き真生意気に
- ◎① 春來たるシャンパンピンク色の服
- ◎① 探梅のあと真つすぐに露天風呂
- ◎① きさらぎの学僧の経初初し
- ◎① フリージアの香りと色を抱く至福

冬水 要
東洋 夢城
かな太
青嵐 香魚
秋雲 藍愛
遙風 夢城
夕佳 要
隼人 冬水

- ③ 木の洞を突く鳥忙し浅き春 遙風
- ② 針供養覗き寄り来る異邦人 真弓
- ② 枝先に紅を透かして春の雪 真弓
- ② ふきのとう摘み来し伴侶句ふなり 史烙
- ② 旅苞の夫婦湯呑みや春炬燵 要
- ② 椿落つ裏参道の贈物 藍愛
- ② 有明海星をうつして冴返る 東洋
- ① 春光や丘陵転がる声と子ら 一華
- ① 梅古木紅を掲げる幹白し 一華
- ① 一輪の白梅に真底心洗われて 一華
- ① ふるさとを偲ぶ言の葉おろし蕎麦 史烙
- ① 呑み込んで残る微香や磯菜摘み 夢城
- ① 坪庭の梅綻びて春近し 誠
- ① 三姉妹語りつくせぬ春宴 紀泉
- ① 祠開き真打現る猫の恋 香魚
- ① 梅東風に猛る琵琶の音湯島天神 夕佳
- ① 恋猫の真偽の間迷ひけり 冬水
- ① はだれ雪畦が田の字に浮き上がる 秋雲
- ① ぼたん雪木々それぞれの花咲かせ 春草
- ① 梅真白名も知らぬ鳥尋ね来る 樹音
- ① 春さざす真青な虫の玻璃戸ゆく 藍愛

【次回開催】

★日時・平成三十一年四月三日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・三句 千葉大構内吟行です

★会員互選句

- ⑥ 梅咲くや無音の鳥も訪ね来て 隼人
- ④ 鳥帰る点滴続く一人部屋 冬水
- ④ 炊煙の真つ直ぐ上がるやわき春 香魚
- ④ 転がりて道を残せし雪だるま 春草
- ③ くぐり戸や梅香が誘ふ庵かな 而今
- ③ せせらぎのふところありて糸柳 而今
- ③ 春泥を跨ぎて有為の奥山へ かな太
- ③ 涅槃西風片目の乾く生魚 かな太
- ③ 一品を持ちより語る春の宵 紀泉
- ③ 毛筆の真の一文字風光る 隼人